

優しい風の吹く街



2025年4月に行われた市長選挙において「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚」を公約に掲げた森臨太郎さんが当選されました。4月18日には山崎晴恵市長の退任式があり、21日には森臨太郎宝塚市長体制がスタートしました。新市長はこの日、職員に対して「職員には役職ではなくそれぞれの役割がある。しかし、人としての上下はなく平等。どんどん意見を聞かせてほしい。市長の役割は最後の決断と責任。

(学校の先生みただけど)必ず明るい挨拶をかわそう!市役所は市民を下から支えるところ。」などと訓示されました。職員お一人おひとりの心に響いたのではないのでしょうか。

私も合意形成できる議会をめざして、議員として一層努力し、二元代表制の一翼を担うことができるよう頑張ります。

2025年度 一般会計予算

歳入歳出予算の補正後の総額

948億2400万円

今年度の予算は、4月に市長選挙が実施されたため、義務的経費や経常的経費に加えて、継続的にとりくんでいる事業や市民生活に密着した事業などの経費を盛り込んだ「骨格予算」であったことから、6月補正予算として政策的判断を要する経費が主なものとして計上されました。

(実際には骨格予算から7億900万円の減額となっています。)

予算特別委員会において、3議員が補正予算から障がい福祉基金積立金2億7000万円を削減する修正案を提出。しかし、市長と市民当事者による基金の用途を協議する検討会が発足したばかりであることから、積立金削減は認められないとして、私たちは修正案に反対しました。その結果、修正案否決で原案が可決されました。



市長施政方針



森臨太郎市長

①いのちを守るまち

市立病院建て替え、医療・福祉・介護・保健を総合的に改革

②暮らしを支えるまち

全ての世代が安全に安心して自分らしく暮らせる環境を整備

③未来につづくまち

わたしたちの創ったまち宝塚、市民との対話

1 中学校の部活動地域展開について

<質問1>

地域展開担当課の新たな設置や専門のコーディネーターを置くことを検討すべきではないか。

<教育長答弁>

現在、管理部、学校教育部、社会教育部の3部のプロジェクトチームを編成。長期的な組織の在り方やコーディネーターの配置も検討していきたい。

<質問2>

地域クラブ指導者の労務条件と子どもたちの安全を守る責任の所在は。

<教育長答弁>

報酬や責任の所在はクラブの運営団体に帰属する。

<質問3>

地域クラブでの指導を希望する教職員の兼職兼業時の労務条件は。

<教育長答弁>

教員の身分ではないことから労働基準法が適用される。運営団体と学校長が連携して総労務時間の管理が必要となる。

北野さと子の意見

地域クラブに関わる教職員が過重労働になってしまっては持続できなくなるので、しっかりとした調整が必要不可欠である。

<質問4>

支援や配慮の必要な子どもたちや学校に登校しづらい子どもたちの願いは十分に反映されるのか。参加をどう促していくのか。

<教育長答弁>

活動の選択肢を広げ、参加したい活動を展開する。

北野さと子の意見

子どもの権利条約の基本理念である「参加する権利」や「意見表明する権利」を大切に、それぞれの生徒が参加したい活動や安心できる居場所を確保していくべきである。

<質問5>

社会問題となっている指導者からのハラスメントを防ぐ方策と相談窓口の設置が必要ではないか。

<教育長答弁>

年2回の指導者講習会の受講を促し、教育委員会内に窓口を設置する。

<質問5 2次質問>

子どもの権利サポート委員会への相談ができることを周知するべきでは。

<子ども未来部長答弁>

- ・サポート委員会だよりを年3回発行
- ・ダイヤルカードの配布
- ・愛称「たカラッコクラブ」で更なる周知

<質問6>

モニタリング機能が必要不可欠ではないか。

<教育長答弁>

仮称「部活動地域移行団体連絡会」を設立して課題や要望を集約するシステムを整備する。

<質問6 2次質問>

文化芸術クラブの地域展開は。

<管理部長答弁>

既存の放送部は委員会へ、吹奏楽、コーラスは指導を希望する教員による地域展開を進め、茶華道、囲碁、手芸、琴、美術等は地域団体としての活動に向けて相談している。



2 子どもの権利擁護と ウェルビーイングな学校環境づくり

<質問1>

本市が2003年から実施してきた「子ども支援サポーター」制度は、心理サポーターやコーチングサポーター、別室登校指導員を配置し、市内外から高く評価されてきた。「心理サポーターがしてくれることで子どもが落ち着いて過ごせる」という声はよく聞かれ、年度途中でも更なる配置を求める要請がある。拡充をできないか。

<教育長答弁>

本市独自のとりくみとして発達に特性があり、個別に支援が必要な子どもや情緒が不安定になりやすい子どもが、クラス集団の中で安心して過ごせるように、心理的支援を行う心理サポーターを配置している。本年度は14名の心理サポーターが27校の小中学校で37名に対して支援している。今後も確保と支援の継続に努める。

<質問2>

子どもの権利擁護とウェルビーイングな学校づくりに寄与している、教育と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカー（SSW）の未配置校への配置が急務ではないか。

<教育長答弁>

現在SSW未配置校へは拠点校から派遣している。SSWは子どもを取り巻く生活環境を含めたアセスメントとプランニングを行い、学校や家庭及び関係機関の連携による適切な支援を行うとともに、校内支援体制の強化及び教職員の指導力や対応力の向上を図ることを目的として配置している。拡充については引き続き県へ要望していく。

<質問3>

こころとからだのアンケート、ASSESS、いじめアンケートなど、子ども支援を目的としたアン

ケートが頻繁に行われているが、その結果から実際の子どもの支援につながっているのか。

<教育長答弁>

こころとからだのアンケートやいじめアンケートは紙媒体で実施後、全員と個別に面談を行うことで、子ども理解や個別ケースの早期支援、早期解決に役立ててきた。昨年度からタブレットを活用して実施している。アンケートの有効性を比較検証し、負担なくとりくむことができ、結果を基に具体的な子ども支援につなげるよう研究していく。

<質問4>

学校や教職員に対するカスタマーハラスメント対策は。法的対応や法的支援を行うスクールロイヤーや教育委員会顧問弁護士の実働を求める。

<教育長答弁>

教職員が保護者から不当とも言える要求や苦情によって、体調を崩して休職に至るケースが毎年発生しており、教員不足など学校運営や教育活動に影響を及ぼす深刻な課題と認識している。教育委員会が学校を支援するとともに、必要に応じて顧問弁護士に相談するなど、法的支援も踏まえて厳正に対応していくこととしている。



3 放課後児童クラブについて

<質問1>

支援員の未配置解消と待遇改善は進んでいるのか。

<市長答弁>

地域児童育成会における支援員は現在5名が未配置。今後も継続的に募集を行い、必要な人員の確保に努めていく。支援員の待遇は行政職の職員に準じている。人事院勧告に従って報酬を改定。

<質問2>

民間放課後児童クラブの子どもの命を守るための安全対策は進んでいるのか。

<市長答弁>

安全な運営管理のため、運営事業者と適宜情報交換を行い、消防などの関係機関と緊密な連携を図る。

<質問2 2次質問>

A施設の保護者は火災等の際、避難方法が

子どもの発達段階や実態とかけ離れていると感じているがどうか。

<消防長答弁>

運営する事業者には、児童の命を預かっているという認識を強く持っていただくべく、児童が安全に避難できる器具の設置を呼びかけていきたい。

北野さと子の意見

このA施設は飲食店ビルの3階。河川敷に面しており、4階ほどの高さになる。避難はしごで避難するのは難しい。最善の避難方法を指導してほしい。

<質問3>

本年度に本格的に全体を見直す予定との方針は。

<市長答弁>

民間放課後児童クラブの新設整備だけでなく、地域児童育成会の拡充のほか、放課後の子どもの多様な居場所づくりなど、様々な可能性について検討する。地域資源の現状や人口推計、ニーズの分析を進める。新たな受け皿の検討を進める。

活動カトピックス



6/15 兵政連メンバーで泉事務所訪問
山崎、北野、水岡、古田、三木、竹内議員

風のこころ

国に先行して給食の無償化を求める請願が出された。しかし、実施できるかどうかは地域の財政状況にも左右され、子どもたちの育ちに地域格差が生まれる。だからこそ、国が責任をもって無償化を進めるべきである。さらに自校調理の安全でおいしい宝塚市の給食について、質の高さを守り発展させてほしい。人的配置や調理現場の環境改善も喫緊の課題である。解決策を！

